

羅針盤

平成28年度第26号（通算277号）

平成29年3月3日（金）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

中学校・高等学校理科指導資料

学ぶ意義や有用性を実感する 理科の授業づくり

— 科学と人間生活との関わりを意識した実践事例 —

理科を学ぶことに対する意義・有用性に関する生徒の意識については、改善の兆しはあるものの、依然として課題が見られ、この課題の克服につながる授業づくりを目指して研究を行いました。この度、研究成果をまとめた中学校・高等学校理科指導資料「学ぶ意義や有用性を実感する理科の授業づくり—科学と人間生活との関わりを意識した実践事例—」を発行し、各校に配付するとともに、総合教育センターのWebページに掲載しました。そこで、今号では、その概要を紹介し、ぜひ、積極的に活用してください。

指導資料はこちらからダウンロードできます！

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h28/16-01.pdf>

中学校・高等学校理科指導資料

学ぶ意義や有用性を実感する 理科の授業づくり

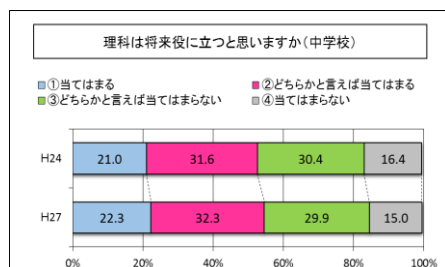
— 科学と人間生活との関わりを意識した実践事例 —

平成29年2月
岡山県総合教育センター

A4判 全59頁

第1部 研究編

全国学力・学習状況調査生徒質問紙と共通の調査項目及び、独自の項目と記述式の回答を加えたアンケートを、協力委員が所属する県下中・高等学校の担当クラスで実施し、その分析を行いました。その結果、教師から生徒への「知識の伝達」が中心となっていることが多く、生徒の「主体的な学び」の機会が十分ではないことが考えられました。そこで、教師による一方向の「知識の伝達」型の授業を改善し、生徒の「気付き」を引き出すことが、生徒が学ぶ意義や有用性を実感する授業において大切だと考え、下に示す三つの視点からの授業づくりを行い、実践しました。本指導資料では、この三つの視点について大切なことや、授業での効果的な手立てなどをまとめています。



H27年度全国学力・学習状況調査の全国結果
改善の兆しはあるものの（肯定的回答H24:52.6%
→H27:54.6%）、他教科（国語H27:84.1%、数学:72.3%）
と比較すると、依然として低く、課題である。

授業づくりの三つの視点

知識の
伝達自ら学び
自ら気付く

(1) 実態把握と題材選び

— 授業・単元の構想の段階で意識すること —



(2) 思考場面の設定

— 1単位時間の授業で意識すること —



(3) 学びの手ごたえ

— 授業・単元を貫いて意識すること —



第2部 中学校・高等学校における実践事例編

中学校、高等学校の12の実践事例を掲載しています。それぞれの実践事例では、授業で用いたワークシートや授業の様子、生徒の感想なども随所に掲載していますので、授業づくりの参考にいただければと思います。また、地区での研修会等で、紹介している実践事例を基に、生徒が理科を「学ぶ意義や有用性を実感する理科の授業づくり」を行うためにどのような取組ができるかなど、研修の協議資料として活用していただくのも効果的です。

中学校 4事例
高等学校 8事例

実践事例の構成

- (1) 授業づくりの視点
- (2) 実践例
- (3) 実践から見えてきたもの

次回の発行は、3月17日（金）の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

(担当・教科教育部)